

(別紙様式)

平成28年度 赤穂市学校評価報告書

学校名	赤穂市立有年小学校
-----	-----------

1 本年度の学校経営方針

学校教育目標「夢を育み、地域を誇りにして、たくましく共に学ぶ児童の育成」

- ・夢をもち、その実現のために自立して学ぶ学校づくり
- ・「確かな学力・豊かな心・健やかな体」を育成する学校づくり
- ・地域のよさを知り教育資源を生かした特色ある学習の充実

2 本年度の学校重点目標

少人数ならではの教育を推進し、人権尊重の精神を基盤に、子ども達が「わかった、できた」と進んで学ぶ授業を創造し、確かな学力と自己表現力をつけ、夢や目標をもって努力する児童を育成する。

- (1) 「生きる力」を支える確かな学力の向上
基礎学力の定着を図る。学習習慣の定着を図る。教師の授業力を向上させる。
- (2) 互いを思いやり、命や人権を大切にする豊かな心の育成
個々のニーズに応じた指導や支援の充実した特別支援教育を推進する。開発的生徒指導を進める。有年小学校いじめ防止基本方針に則っていじめ問題の対応をする。道徳や系統的な体験活動の充実を図る。
- (3) 健やかな心と身体を培う健康教育と安全教育の推進
基本的生活習慣の定着と体力づくりを進める。児童の心身の的確な状況把握と対応に努め、健康・安全の意識を高める。
- (4) 幼小・小小・小中連携教育の推進
- (5) 保護者・地域との連携の充実と学校組織体制の活性化
- (6) 地域との連携の強化と地域の学校として相互の信頼関係の構築

総合的な学校関係者評価

- ・児童数が減る中、どの自治会においても、少子高齢化の傾向が顕著である。その中で学校が地域に果たす役割はとても重要である。西有年では、祭りや獅子舞の後継者不足が深刻化し、地域の伝統の継承が難しくなっている。はりま台においては、地蔵盆ととんどが自治会と子ども会の貴重な接点となっている。東有年においても似た傾向にあり、伝統の継承が難しくなっている。このような地域実態を踏まえ、地域との連携を大切にした学校経営を進め、少人数だからこそ生き生きと活躍する児童を育ててほしい。
- ・地域団体連絡会議、オープンスクール、評議員会等を、学校からの発信や学校への情報提供の場として活用したい。
- ・学校自己評価については、その内容および改善方法ともに適切である。児童は学年を超えて仲がよく、まとまりのある集団となっており、少人数ならではの有年小学校としての良さが随所に感じられる。それと同時に、切磋琢磨の精神を身につけさせることも必要であり、今後も幼小・小小・小中の連携の充実を図ることが大切である。
- ・地域、学校を問わず、児童・保護者の行事への積極的な参加を一層呼びかけていくことを今後も大切にしたい。
- ・今年度、運動会種目の防災訓練が天候の都合で実施できなかったため、来年度の開催が望まれる。防災教育については、災害の発生が多発しており、実際に命を守るのに役立つ内容の検討をお願いしたい。保護者への防災意識を高める取組も継続的が必要である。
- ・今後も学校内外の行事等を大切にしながら、地域とともに歩む教育を推進してほしい。

3 自己評価結果 (A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (重点目標)	評価項目 (学校・教師の取組)	評価資料	達成状況	改善の方策
	評価指標および目標値 (期待される姿)			
開かれた学校づくり (家庭・地域との連携)	項目 家庭や地域への情報発信を効果的に行う。	教職員・保護者アンケート	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域との連携をさらに意識し、特色ある教育活動や有年の良さを発信する。(学校だより、学年通信、保健だより、ホームページ等) ・子ども達を地域の宝としてみんなで育てるために出会いを大切にする。(連絡帳・本読み表の活用、家庭訪問、自治会等の地域団体との情報交換、地域力の活用)
	指標 学校や学級の教育活動が、学校通信、学年だより、学校HP等により家庭・地域に理解されている。	学校評議員会記録		
	項目 住民参加の地域の特色を生かした教育活動を工夫する。	教職員アンケート		
	指標 家庭や地域住民の来校・参加の機会を意図的に設けている。			
	項目 保護者とのコミュニケーションを密にし、信頼関係を築く。	教職員・保護者アンケート		
生徒指導	指標 連絡のつきにくい保護者とも積極的に連絡を取っている。		A	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員の共通理解のもと、共感的内面理解に基づいた、意図的、計画的、組織的な生徒指導を行う。(各種生徒指導関連委員会、ブロック朝会の開催) ・いじめアンケートの定期的実施や欠席児童への連絡など、実態把握と早期対応を的確に行う。
	項目 学校評議員制度等を活用してよりよい学校経営を図っている。	教職員・保護者アンケート		
	指標 学校評議員会を適切に開催し、授業参観・行事・オープンスクールにも参加を得て、学校経営に生かしている。	学校評議員会記録		
	項目 学校施設を地域に開放している。	教職員・保護者アンケート		
	指標 学校施設を、地域やスポーツ少年団、スポーツクラブ21等に開放している。	学校評議員会記録		
危機管理体制の整備	項目 好ましい人間関係と豊かな集団生活が営まれる学級づくりに努める。	教職員・児童・保護者アンケート	A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な危機事例をもとに、学校マニュアルの見直しや研修を継続する。 ・見守り隊や地域団体との情報共有と連携を密にする。
	指標 好ましい人間関係づくり・豊かな集団生活づくりに向けて適時性のある指導を行っている。	行動観察		
	項目 どの児童にも学校に居場所をつくる。	教職員・児童・保護者アンケート		
	指標 良いところを認め合う仲間作りと、学ぶ喜びを感じられる授業づくりをしている。	行動観察		
危機管理体制の整備	項目 生徒指導方針の確認と指導体制の確立を図る。	教職員・児童・保護者アンケート	A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な危機事例をもとに、学校マニュアルの見直しや研修を継続する。 ・見守り隊や地域団体との情報共有と連携を密にする。
	指標 生徒指導方針や問題行動対応のマニュアルを作成し、組織体制の確立を図っている。	校内委員会記録		
	項目 いじめ・不登校・非行問題は「兆し」のうちに解決する。	教職員・児童・保護者アンケート		
危機管理体制の整備	指標 職員や保護者と協力し、初期対応し、早期解決に努めている。	行動観察	A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な危機事例をもとに、学校マニュアルの見直しや研修を継続する。 ・見守り隊や地域団体との情報共有と連携を密にする。
	項目 実効ある学校マニュアルを策定する。	教職員・保護者アンケート		
	指標 防災計画や危機管理対応マニュアルを策定し、研修・訓練をしている。	行動観察		
危機管理体制の整備	項目 家庭・地域と連携して児童の安心安全を確保する。	教職員・児童・保護者アンケート	A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な危機事例をもとに、学校マニュアルの見直しや研修を継続する。 ・見守り隊や地域団体との情報共有と連携を密にする。
	指標 学校と家庭が連携して防災意識を高め、安全意識の向上に努めている。	行動観察		
危機管理体制の整備	項目 児童に対する安全意識・防犯意識の充実を図る。	教職員・児童・保護者アンケート	A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な危機事例をもとに、学校マニュアルの見直しや研修を継続する。 ・見守り隊や地域団体との情報共有と連携を密にする。

学校関係者評価

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない ×:適切でない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数の学校の良さ、有年地区の良さを「有年物語」を中心にさらに伝えていってほしい。 ・オープンスクールや地域団体行事等、地域との交流時を利用して情報交換を行う。 ・休み時間に児童と過ごしたり、連絡帳・本読み表の活用や家庭訪問をしたりして、児童・保護者とのコミュニケーションが途切れないよう、意思疎通を図る。 ・登下校指導時を利用し、地域住民に積極的に声をかけ、顔と名前を覚えてもらう。
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な仲間との遊びを大切にし、児童自身が問題となることに気づき、解決できるように支援してほしい。 ・日常的に保護者とコミュニケーションを図り、良いことや気になることも伝えるなどして、成長を見守る。 ・全校児童を全教職員の目で見守り、常に声をかけるなど、小さな変化も見逃さないようにする。 ・いじめに対しては、「許さない」と毅然とした姿勢で指導していく。
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・有年中学校区地域見守り隊「マモルンジャー」をはじめ、各自治会との情報連携を深める。 ・児童及びPTAの安全意識を高めるため、校内安全点検や施設点検などの取組を継続していく。 ・本年度、実際の地震に対応し、訓練したことが生きて

	指標	避難訓練や学級指導を充実させたり、児童への安全意識や防犯意識を高めたりしている。	行動観察		・安全点検を定期的及び随時実施する。 ・防災訓練を定期的実施する。			いたとのことで、継続して訓練を実施していく必要がある。
教職員の資 質向上	項目 指標	安全点検を徹底し、施設設備の安全を確保する。 安全点検が確実に実施され、管修簿が各担当により計画的に進んでいる。	教職員・児童・保護者アンケート 安全点検表					
	項目 指標	教育の専門家としての実践的指導力の向上に努める。 実践的指導力向上させるための校内研修・OJT が適切に実施されている。	教職員アンケート 校内研修記録	A	・子どもが主体的に学ぶ授業を充実させる。 ・業務改善を進める。 ・接遇マナーの向上や教職員としての規律の遵守により、人として信頼されるように努める。	◎	◎	・管理職の指導の下、校内研修をより充実させ、子どもも教職員も笑顔で生き生きと教育活動を展開できるよう引き続き取り組んでほしい。 ・校舎内外、公私の場面等にけじめとメリハリをつけ、服装や言動に気をつけ、信頼される教職員であってほしい。
	項目 指標	教育公務員としての使命感を自覚する。 服務規律を守り、互いに笑顔で積極的に勤務している。	教職員アンケート 行動観察					
	項目 指標	家庭や地域社会との円滑な関係を構築する。 家庭や地域の信頼を得ようと心がけている。	教職員・児童・保護者アンケート 学校評議員会記録					
協働体制	項目 指標	各分掌に責任を持って取り組み、校務を改善する。 自立して校務を停滞なく進めている。	教職員アンケート 行動観察	A	・OJT を一層促進し、若手教員の育成を図る。 (ブロック研究会の充実、日常的な情報交流)	◎	◎	・「チーム有年」の良さを生かし、全教職員で協力しながら教育を進め、よりよい学校づくりを進めてほしい。
	項目 指標	協働し、組織的に校務の遂行に取り組む。 各分掌に責任を持って取り組み、校務を改善する。	教職員アンケート 行動観察					
校種間連携	項目 指標	異校種との連携体制の確立を図る。 連携カリキュラムの作成に取り組んでいる。	教職員アンケート 行動観察	A	・担当者を中心に、情報を交流し綿密な計画をたてる。 ・連携教育活動後、その成果と課題を全教職員で共有する。	◎	◎	・幼小合同運動会の実施が定着してきた。地域あげて今後も参加できる大きな行事として取り組んでいく。 ・小小連携では、第2回合同マラソン大会を実施し、地域・保護者の声援が児童への励みとなっていた。
	項目 指標	学びの連続性をふまえた指導に努めている。 幼小・小小・小中連携教育活動に取り組んでいる。	教職員アンケート 行動観察					
自ら学び自ら考える力の育成	項目 指標	学びの場にふさわしい環境づくりに努める。 学級の中で、豊かな友人関係を育み、達成感や喜びを共有し、安心して学べるように努めている。	教職員・児童・保護者アンケート 学級経営報告	A	・めあてとふりかえりを授業に組み込み、見通しをもたせる。 ・発問の工夫、「伝える・聞いて考える」といった思考をつなげ考えを深める授業の研究を行う。 ・授業交流を日常化する。	◎	◎	・教室や校内が整えられ、安心して学ぶことができる環境ができているので継続する。 ・友達と自然に考えを交流し、子どもが大きな声で発表したり、うなずいて聞いたりして、生き生きと学習しているのがよい。
	項目 指標	主体的に学ぼうとする意欲関心を高める学習活動を工夫する。 学習課題について自ら考え、主体的に学ぼうとする意欲や関心を高めている。	教職員・児童・保護者アンケート 行動観察					
	項目 指標	有年小学校のスタンダードな授業を実践する。 めあてからまとめまでの見通しのある授業作りに努める。	教職員アンケート 行動観察					
キャリア教育の推進	項目 指標	キャリア教育推進体制を整備する。 全体計画を作成し、発達段階に応じて取り組んでいる。	教職員アンケート 行動観察	B	・県教委のキャリアノートを活用し、発達段階に応じた教育に取り組む。 ・担当者を中心に、キャリア教育の視点を明確にした全体計画・年間指導計画を作成する。	○	◎	・ふるさとの良さを学び、社会の一員としての自覚や態度を養うという視点での地域の協力を継続していきたい。 ・学年に応じて、将来の夢をもち、学ぶことや働くことの意義を学ばせてもらいたい。
	項目 指標	社会の一員としての自覚や態度を養う。 全教育活動の中で、児童が役割と責任を果たせるように指導している。	教職員アンケート 行動観察					
	項目 指標	多様な体験活動を実施する。 各教科・領域において、人や社会と自分との関わりに気付かせるように工夫している。	教職員アンケート 行動観察					
基礎基本の定着と個に応じた学習指導の徹底	項目 指標	確実に定着するまで個に応じて指導する。 新学習システム等を活用し児童が課題を克服している。	教職員・児童・保護者アンケート 評価テスト	A	・学習規律を定着させ、学習に向かう意欲を高める。 ・個別指導、ノート指導に重点を置いた指導を推進する。 ・問題解決学習を充実させる。 ・朝学習の内容をより充実させる。 ・家庭での学習習慣の重要性を啓発し、定着の協力を得る。	◎	◎	・毎日の朝学習（15分）を今後も継続し、基礎学力の向上に努め、進んで学ぶように意欲をもたせてもらいたい。 ・全学年に同じ図書を与えて、感想を交流するなど読書内容を工夫している点が良い。 ・少人数のよさを生かして、どの子にもより学力をつけてほしい。また、家庭と連携を取り、家庭学習の充実に力を注いでほしい。
	項目 指標	指導と一体化した適切な評価活動を行う。 評価の観点に立った評価と児童の自己評価を適切に行っている。	教職員・児童・保護者アンケート 児童ノート等					
	項目 指標	体験的・問題解決的な学習を進める。 思考の軌跡・学習成果がノート等に表現されている。	教職員・児童・保護者アンケート 児童ノート等					
	項目 指標	保護者と協力し、家庭学習の定着を図る。 宿題がきちんと提出され、内容が充実している。	教職員・児童・保護者アンケート 児童ノート等					
道徳教育	項目 指標	全教育活動の中で道徳性を培う。 教育活動の全領域において道徳性を培うように計画している。	教職員・児童・保護者アンケート 授業記録簿	B	・道徳の授業の基本形を研修し、全員の指導力を向上させる。 ・道徳の時間のカリキュラムを実態に即して見直す。 ・学級集団や縦割りグループでの活動内容を検討するなど、全教育活動の中で道徳性を養う活動を展開する。	○	◎	・気持ちのよいあいさつを交わせることが、良い人間関係づくりの第一歩であるとして、声をかけ合う。 ・思いやりあふれる子の育成を今後も取り組み「道徳の時間」の充実を図っていく。 ・心身ともに健康な児童の育成のためにも、家庭と連携を一層図り、様々な体験をさせていくことを望む。
	項目 指標	道徳的心情・道徳的判断力を養う取組を進める。 道徳教育の要である道徳の時間に、児童の心に響く授業を心がけている。	教職員・児童・保護者アンケート 行動観察					
	項目 指標	互いを認め合う仲間づくりを進める。 お互いのよさを認め合う仲間づくりをし、道徳実践力を育成している。	教職員・児童・保護者アンケート 行動観察					
	項目 指標	資料を活用し道徳の時間の充実を図る。 副読本を計画的に活用したり、教材開発をしたりしている。	教職員・児童・保護者アンケート 授業記録簿					
総合的な学習の時間	項目 指標	全体計画と年間指導計画を作成している。 学校全体を見通して学年に応じた特色ある活動計画になっている。	教職員アンケート 授業記録簿	A	・地域学習の充実を図り、総合的な学習の時間のカリキュラムを再編成する。 ・グローバル化・社会的自立等の課題に対応した横断的、総合的な学習、探求的な学習を進める。	◎	◎	・英語活動の充実が図られるという中で、学年に応じた総合的な学習の充実を図る必要がある。 ・6年生「有年物語」が、有年地区の良さを今後も発信し、地域も応援できるように今後も続くことを希望する。
	項目 指標	各教科との関連を図った指導の展開をしている。 各教科で身につけた知識や技能を相互に関連づけ、学習や生活に生かして総合的に働くようにしている。	教職員アンケート 授業記録簿					
	項目 指標	地域を学び、地域を誇りに思う心を育てる。 地域や児童の実態に応じた、特色ある活動や学習を行っている。	教職員・児童・保護者アンケート 授業記録簿					
特別活動	項目 指標	自主的・実践的な活動を活性化している。 学級活動や係活動などを活性化させ、学級をより良くしようと諸問題の解決に努めている。	教職員・児童・保護者アンケート 学級経営報告	A	・学習指導要領の趣旨に則り、特別活動の校内研修を実施し、全員が指導力を向上させる。	◎	◎	・クラブ活動において地域のゲートボールクラブとの連携を継続する。 ・クラブ活動・委員会活動の組織は、限られた人数では
	項目 指標	自発的・自治的な態度を育てる。	教職員・児童・保護者アンケート					

	指標	学級活動・行事・クラブ活動・委員会活動等を活性化させ、仲間を思いやる行動を育てている。	学級経営報告						あるが、子ども達が楽しみにしているので実施方法を工夫などして行ってほしい。
	項目	異学年交流(有年つきようだい班活動)を計画的に実施する。	教職員・児童・保護者アンケート						
	指標	ふれあい協力する中で、認め励まし合う仲間づくりができています。	学級経営報告						
特別支援教育	項目	一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育を充実させる。	教職員アンケート	A	• 「合理的配慮」の事例を研修する等、校内委員会と指導体制の充実を図る。 • 全教職員が通常学級における特別支援教育の指導力を身につける。	◎	◎	• 地域の実情を踏まえ、児童保護者のニーズに合わせて、支援教育の大切さを引き続き保護者、地域に啓発する必要がある。また、現在最も大切にしている教育として進める。	
	指標	児童個々の課題を明確にして、指導計画・支援計画に沿って指導している。	授業記録簿						
	項目	適切な就学指導を行う。	教職員アンケート						
	指標	校内委員会を設置し関係機関と連携して、適切な就学指導に努めている。	校内委員会記録						
	項目	指導方法や指導体制の充実を図る。	教職員アンケート						
	指標	校内委員会・特別支援教育研修を充実させている。	校内委員会記録						
人権教育	項目	人権尊重の精神を育成する。	教職員・児童・保護者アンケート	A	• 保護者と連携して自尊感情を育てる取組を進める。 • 人権に配慮した教育環境について具体的に研修を進め、実行する。 • 定期的な点検により意識の高揚を図り、環境を整える。	◎	◎	• 子ども達の日常をしっかりと見つめ、意図的に自治的・自主的活動を仕組む中で、心ない言葉や行動、呼び捨て等を見逃さず適切に指導する。 • 日々の中で、教師自身が人権意識・態度を磨き、一人一人が大切にされる学校づくりを図る。 • 家庭との連携を深めたり授業を工夫したりして、自尊感情を高める取組を進める。	
	指標	命と人権を守り、いじめや不登校の未然防止・早期発見・早期解決に努めている。	学級経営報告						
	項目	推進体制を整備する。	教職員アンケート						
	指標	人権を大切にしたい教育活動を各領域の中に位置づけている。	学級経営報告						
	項目	自尊感情を育てる。	教職員・児童・保護者アンケート						
	指標	教育活動の中で自尊感情を育て、目標に向かって努力する児童の育成に努めている。	行動観察						
	項目	人権に配慮した環境を整える。	教職員アンケート						
	指標	人権教育推進上の配慮事項を実行している。	環境点検						
体験活動 ・自然学校 ・環境体験	項目	児童の主体性を生かした自然学校・環境体験事業を実施している。	教職員・児童・保護者アンケート	A	• 該当学年だけでなく、全校で成果と課題をその都度共有する。 • 事前・事後指導の工夫や他教科と関係づけた指導計画の改善に努める。	◎	◎	• 里山体験、長谷川体験等の支援では、今後も地域の人材が協力し、自治会、老人会等連携して取り組むように努力したい。 • 今後も体験活動の教育的意義を踏まえた実践を充実させる。	
	指標	児童が主体的に活動に取り組むことができるように計画している。	授業記録簿						
	項目	自然学校等での体験をその後の生活に生かす工夫をしている。	教職員アンケート						
	指標	自他の理解を深め、よりよい集団をつくらうとする指導に取り組んでいる。	授業記録簿						
	項目	環境教育を計画的に推進している。	教職員・児童・保護者アンケート						
	指標	環境を守ろうとする態度と命を大切にしようとする態度を育てている。	学級経営報告						
防災教育	項目	防災教育・安全教育を計画的に実施する。	教職員・児童・保護者アンケート	B	• 講演会や保護者参加の体験学習など、児童の実態や学びの系統性を踏まえて内容を検討する。 • 子ども自身が常に防災の意識をもって行動できるように、日ごろの防災訓練を取り入れる。	○	◎	• 防災教育は大切なことであり、今後も実態に応じた内容を検討し、継続する必要がある。 • 幼小合同運動会では、地域を巻き込んだ防災訓練を継続的に実施する必要がある。	
	指標	総合的な学習の時間・学級活動・防災訓練などで防災の意義を理解させ意識を高めている。	行動観察						
	項目	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上を図っている。	教職員アンケート						
	指標	自然・人的危機などさまざまな緊急事態に冷静に対応できるように研修している。	研修記録						
	項目	家庭・地域と連携して児童の安心安全を確保する。	教職員・児童・保護者アンケート						
	指標	校外児童会や地区懇談会で点検し、防犯体制づくりをしている。	行動観察						
福祉教育	項目	共生の心を育てる指導を計画的に実施している。	教職員・児童・保護者アンケート	A	• 福祉関連の図書を購入し、福祉学習に適した環境を整える。 • 年間計画及び活動内容を再考し、より充実させる。	◎	◎	• 車イス体験、高齢者疑似体験、手話、点字体験を通して、心豊かな児童の育成が図られている。今後も地域の高齢者とともに考えていきたい。	
	指標	高齢者や障がいのある人などへの理解を深める指導に取り組んでいる。	行動観察						
	項目	児童の心に響く福祉体験や高齢者交流を行う。	教職員・児童・保護者アンケート						
	指標	児童の行動や態度に変容が見られる。	行動観察						
情報教育	項目	学校教育全体で体系化した情報教育を推進する。	教職員アンケート	B	• ネット犯罪・情報モラルに関する研修を、教師、保護者、児童対象で実施し、絶えず情報リテラシーの向上を図る。	◎	◎	• 児童、保護者等を対象に実施したネット犯罪防犯教室等の研修を今後も継続し、意識の向上を図ってほしい。 • 地域に対しては、防犯意識を高めるように引き続き発信していただきたい。	
	指標	情報教育に関する全体計画を作成し、指導の充実に取り組んでいる。	授業記録簿						
	項目	情報モラルを育成する。	教職員・児童・保護者アンケート						
	指標	保護者や関係機関と連携してネットリテラシーについて指導している。	授業記録簿						

※ **項目** = 達成度が比較的低い項目

自己評価における特記事項

・特記事項なし

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

<ul style="list-style-type: none"> 児童・保護者アンケートにおいてCやDに評価をつけた児童・保護者の思いを丁寧に聞き取る。 善き伝統を守りつつ、広く地域や地域外にも日常の様子が発信できるように教育実践を広げていく。 少人数のよさを活かし、人権教育を基盤として学校教育目標を達成する教育活動を展開できるよう取り組む。
